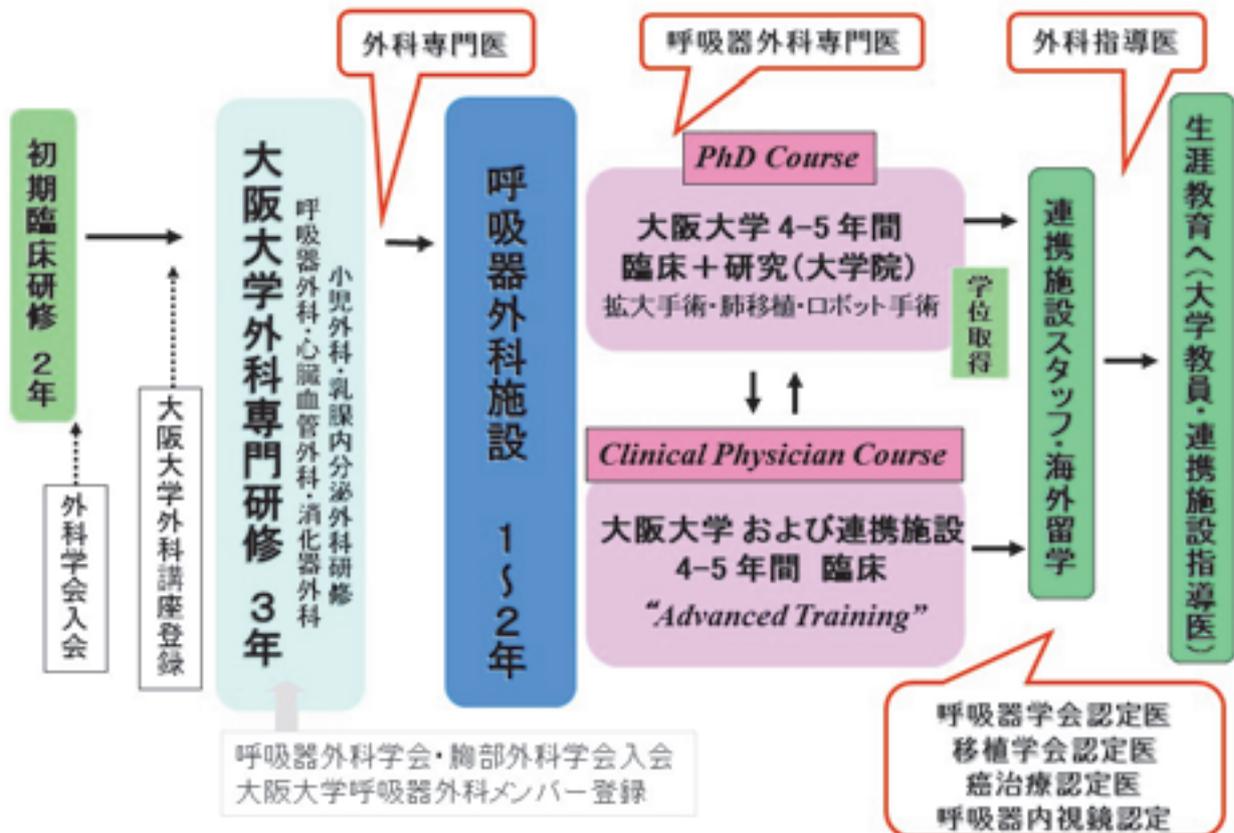


# 外科専門研修プログラム

## サブスペシャルティ重点コース / 呼吸器外科専門医コース

### (1) コースの全体像

初期臨床研修終了後、大阪大学を基幹施設とした大阪大学外科専門研修プログラムへ登録し、外科専門研修を開始する（外科共通コース参照）。専門研修プログラムでは卒業後5年で外科専門医を取得することを目標としており、主に一般消化器外科研修を行うが、外科専門医取得に必要な症例集積の達成度をみながら、希望により呼吸器外科研修を早期に開始することも可能である（下記の図を参照）。外科専門医取得後はSubspecialtyとして呼吸器外科専門医の取得を目指す。呼吸器外科専門医認定修練施設である大阪大学または連携基幹施設において2～3年間の呼吸器外科修練を行い、呼吸器外科専門医を取得する。また、大学院進学を希望するものについては、大阪大学大学院医学系研究科呼吸器外科学講座に所属し3-4年間の基礎研究を行い医学博士取得を目指す。留学希望者に対しては大学医局より海外施設を紹介する。その後、指導医として大学や基幹連携病院で勤務しつつ、後進の指導と国内外の呼吸器外科学をリードする人材を養成する。



## (2) コースの概要

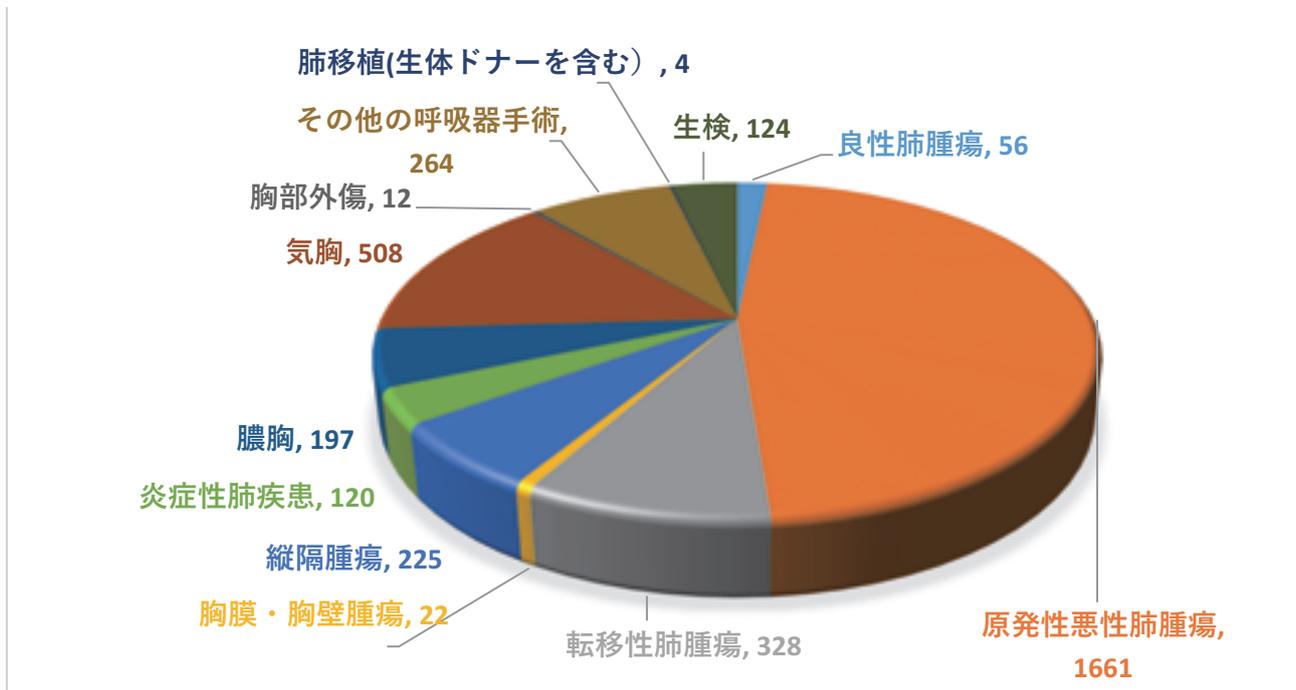
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学 外科連携病院	外科	一般消化器外科手術	3-5人	一般消化器外科手術・周術期管理の習得、外科専門医の取得	各施設 2名	1-2年
大阪大学医学部附属病院	呼吸器外科	肺縦隔疾患手術、肺移植、低侵襲胸腔鏡手術	6人	呼吸器外科先端医療の研修、呼吸器外科専門医・指導医の養成、臨床およびトランスレーショナル研究	8人	2-4年
大阪大学呼吸器外科 連携施設  市立吹田市民病院、JCHO 大阪病院、市立豊中病院、りんくう総合医療センター、国立病院機構大阪医療センター、箕面市立病院、大阪警察病院、八尾市立病院、国立病院機構近畿中央呼吸器センター、市立東大阪医療センター、大阪はびきの医療センター、大阪国際がんセンター、堺市立総合医療センター、西宮市立中央病院、大阪急性期・総合医療センター、KKR 大手前病院、国立病院機構大阪刀根山医療センター、吹田徳洲会病院、日本生命済生会日本生命病院、市立池田病院、守口敬仁会病院、大阪労災病院、市立芦屋病院、済生会千里病院、川西市立医療センター	呼吸器外科	肺癌・炎症性肺疾患手術、低侵襲胸腔鏡手術	1-3人	一般呼吸器外科手術の研修、呼吸器手術周術期管理の習得、呼吸器外科専門医・指導医の養成	総数 15名  (各施設 1~2名)	2年

## (3) コースの実績

一般消化器外科を含めた3年間の外科研修により外科専門医取得に必要な120例の術者を含む350例以上の手術経験が可能である。また、呼吸器外科専門施設では年間3000例以上の全身麻酔手術があり、修練では年間100例以上の肺悪性腫瘍や気胸を中心とした手術を経験する。呼吸器外科手術の基本である開胸手術から、低侵襲手術の基本である完全鏡視下手術まで幅広く経験できるように修練プログラムを作成している。さらに、大阪大学では、進行肺癌に対する拡大切除、縦隔疾患手術、肺・心肺移植やロボット支援手術、単孔式胸腔鏡手術などの先端医療も経験する。また、医局主催の手術手技研究会や講習会に積極的に参加することで、系統的に手術手技を習得する。大阪大学附属病院では

呼吸器内科と共通病棟とする呼吸器センターを開設しており、呼吸訓練専属のリハビリチームも常駐している。毎週開かれるカンファレンスでは外科、内科のみならず放射線科、放射線治療科も参加し、治療方針を議論、検討することでシームレスかつ機動性に富んだ呼吸器診療も経験できる。

2024年大阪大学連携施設全体の手術数（全身麻酔手術 3521例）



大学院進学希望者は呼吸器外科内の研究グループのみならず大学内の他の基礎医学教室と連携することで外科学、腫瘍学、免疫学、病理学、遺伝学などの幅広い研究分野を専攻することができる。

#### (4) コースの指導状況

外科の基礎となる一般消化器外科研修では外科学会指導医より基本外科手技から良性疾患手術、胃・大腸などの悪性疾患手術や低侵襲手術として腹腔鏡下手術の技術指導を受ける。外科専門医取得後は大阪大学呼吸器外科または大阪大学呼吸器外科連携施設において、まず気胸などの嚢胞性肺疾患、良性肺・縦隔腫瘍、肺癌に対する定型的肺葉切除を経験する。さらに、完全鏡視下肺癌手術、完全鏡視下縦隔腫瘍手術のみならず最新の単孔式胸腔鏡手術などの低侵襲手術、難易度の高い炎症性肺疾患に対する根治手術、大血管など周囲臓器合併切除や気管支形成術など拡大手術、移植手術やロボット支援手術といった幅広い技術指導を受ける。

研修の一つとして模擬臓器や摘出臓器を用いたトレーニングも行っており、ベーシックコース、アドバンスコースとレベルアップをはかっていく。また胸腔鏡のトレーニングも行っている。



関連施設全体の若手医師対象の講習会



心肺ブロックを用いての手技練習



専攻医対象  
胸腔鏡手術練習

## (5) 専門医の取得等

学会等名	① 日本外科学会 ② 日本呼吸器外科学会、日本胸部外科学会 ③ 日本がん治療認定医機構
資格名	① 外科専門医 ② 呼吸器外科専門医 ③ がん治療認定医
資格要件	① 5年以上の修練、350例の手術経験（うち120例は術者）、各専門分野の必須症例数以上の修練実績、研究・論文発表、筆記・面接試験 ② 術者として50例、助手として100例の経験、論文発表3回、学会発表5回、日本呼吸器外科学会総会または日本胸部外科学会学術集会への5回以上の参加、卒後7年以上、外科専門医であること、筆記試験 ③ 基本領域学会（日本外科学会など）の専門医資格を有し、認定研修施設において2年以上の研修、筆記試験
【学会の連携等の概要】 日本外科学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会の連携により呼吸器外科専門医を認定する。呼吸器外科専門医合同委員会による基幹修練施設・関連修練施設において呼吸器外科研修を行い、専門医を取得する。	

※専門医制度の変更などで資格要件が変更される場合がある



## 問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 呼吸器外科

担当者 大瀬 尚子

✉ naokoose@thoracic.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.thoracic.med.osaka-u.ac.jp/jp/resident/index.html>

